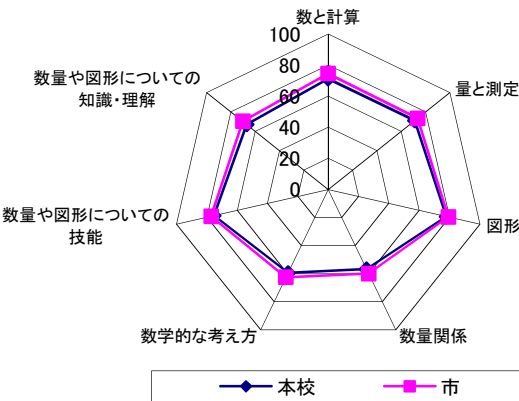


宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	71.1	74.5
	量と測定	71.1	73.5
	図形	78.0	79.2
	数量関係	56.7	59.9
観点別	数学的な考え方	59.4	62.5
	数量や図形についての技能	75.4	77.1
	数量や図形についての知識・理解	67.0	70.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市より下回っている。真分数のたし算や小数のたし算は、よくできていた。3桁×2桁＝5桁の計算や、3桁÷2桁のあまりのある計算、概数に対応する数の範囲でつまずきが多く見られた。	計算については、朝の学習や家庭学習を中心に繰り返し練習していく。また、授業の始めや終わりに、可能な範囲で5分程度、計算問題を解く時間を取り入れていく。
量と測定	平均正答率は、市より下回っている。分度器の中に示された角の大きさの目盛を読み取ることや角の大きさの見当をつける問題でつまずきが見られた。長方形の面積を求めることはできるが、身近にあるものの面積を推察する問題の正答率がかなり低かった。複合図形で、面積を求める図から式がわかる問題での正答率が低かった。	角の大きさを見当する場合は、180度より大きい小さいかなど角の大きさの感覚を育て、計算で求める方法も繰り返し練習する。分度器の操作についても個別に指導していく。身近にあるものの面積については、実際に計測して計算する機会を多く設けるようにする。また、複合図形の面積を求める場合は、長方形や正方形などに分け、計算するとよいことを理解させ、繰り返し指導していく。
図形	平均正答率は、市より下回っている。円の直径の理解や二等辺三角形の作図はよくできていたが、球の半径から、球が3つ並んだときの長さを求める問題でつまずきが多く見られた。	図形の作図については、きちんとかけているか確認しながら、個別に対応し、指導していく。球の半径から、球が3つ並んだときの長さを求める問題では、類似問題で繰り返し練習し、計算方法を習得させる。
数量関係	平均正答率は、市より下回っている。二次元表の読み方はよくできたが、折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る問題でつまずきが多く見られた。二次元表を利用し、問題を解く問題では正答率が特に低く、市の正答率も低いことから、難問であったと考えられる。	算数の時間だけでなく、国語や社会、総合の時間においても、目的に合った表やグラフを用いて表し、調べる活動を行う場面を多く取り入れながら理解を深めるようにする。また、資料の整理では、表に示してある2つの観点を、一つずつの観点について確認し、その後2つの観点につなげていくようにする。